

“月日を歩き、学んで歩く” 明德の「今」を伝える月刊誌「げっぼがっぼ」

# 月歩学歩

## いつもと違う場所



### 特集 わくわく体験研修 (P.4-23)

- ・芸術という分母～スペインの文化に触れて
- ・世界の最貧国・カンボジアの子どもたち
- ・富士山の頂から観る
- ・隠岐の島の人と文化に出会う旅
- ・鹿児島のかども、大人と出逢う
- ・東北スタディツアー
- ・昔話が息づく町・遠野
- ・Sense of Wonderの発見
- ・ネパール幼児教育スタディツアー
- ・生活と文化を考える～富山県利賀村研修

・「月歩学歩学生委員」ページ

(P.24-25)

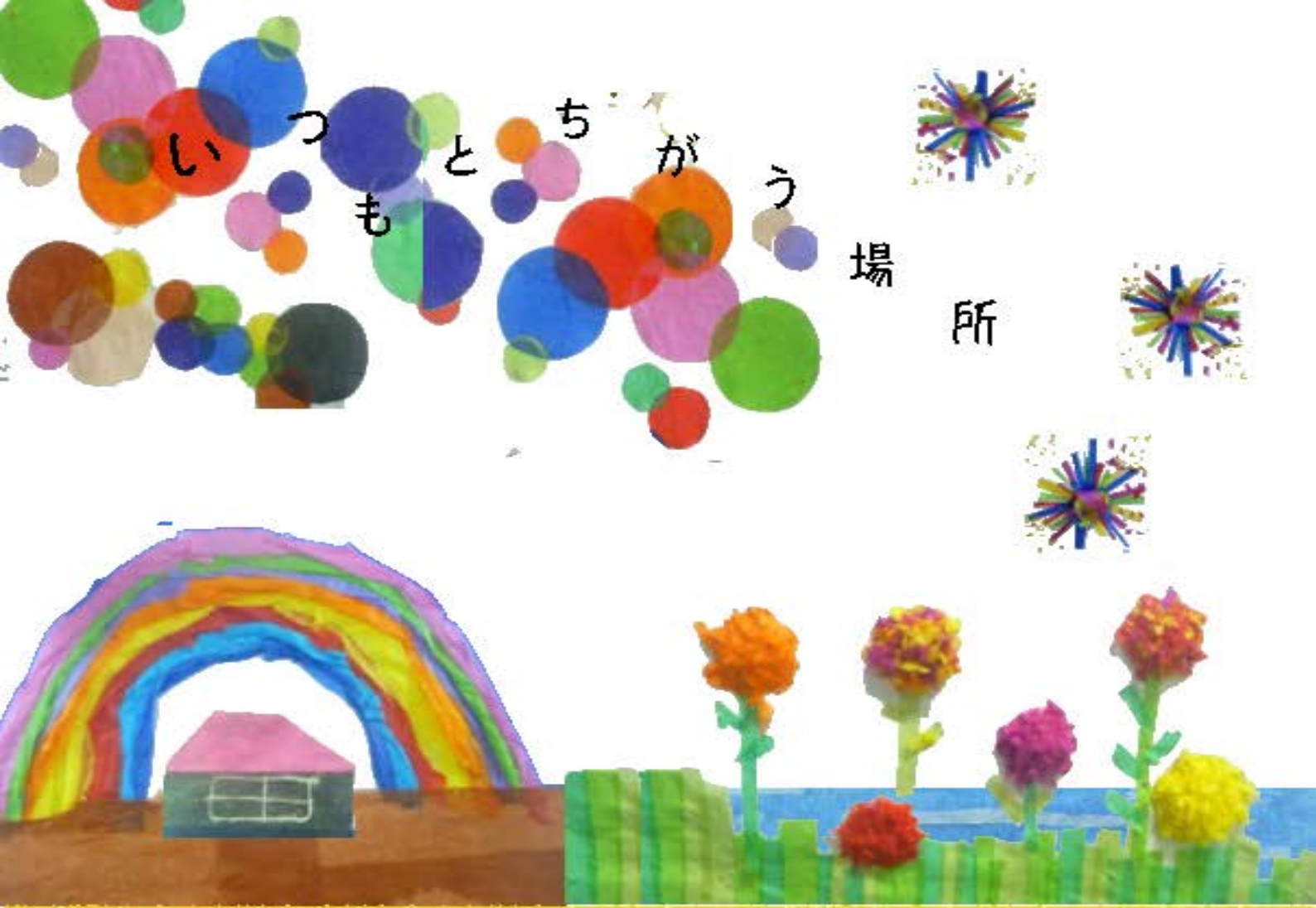
・横田御夫妻とラジオで対談

(P.26)

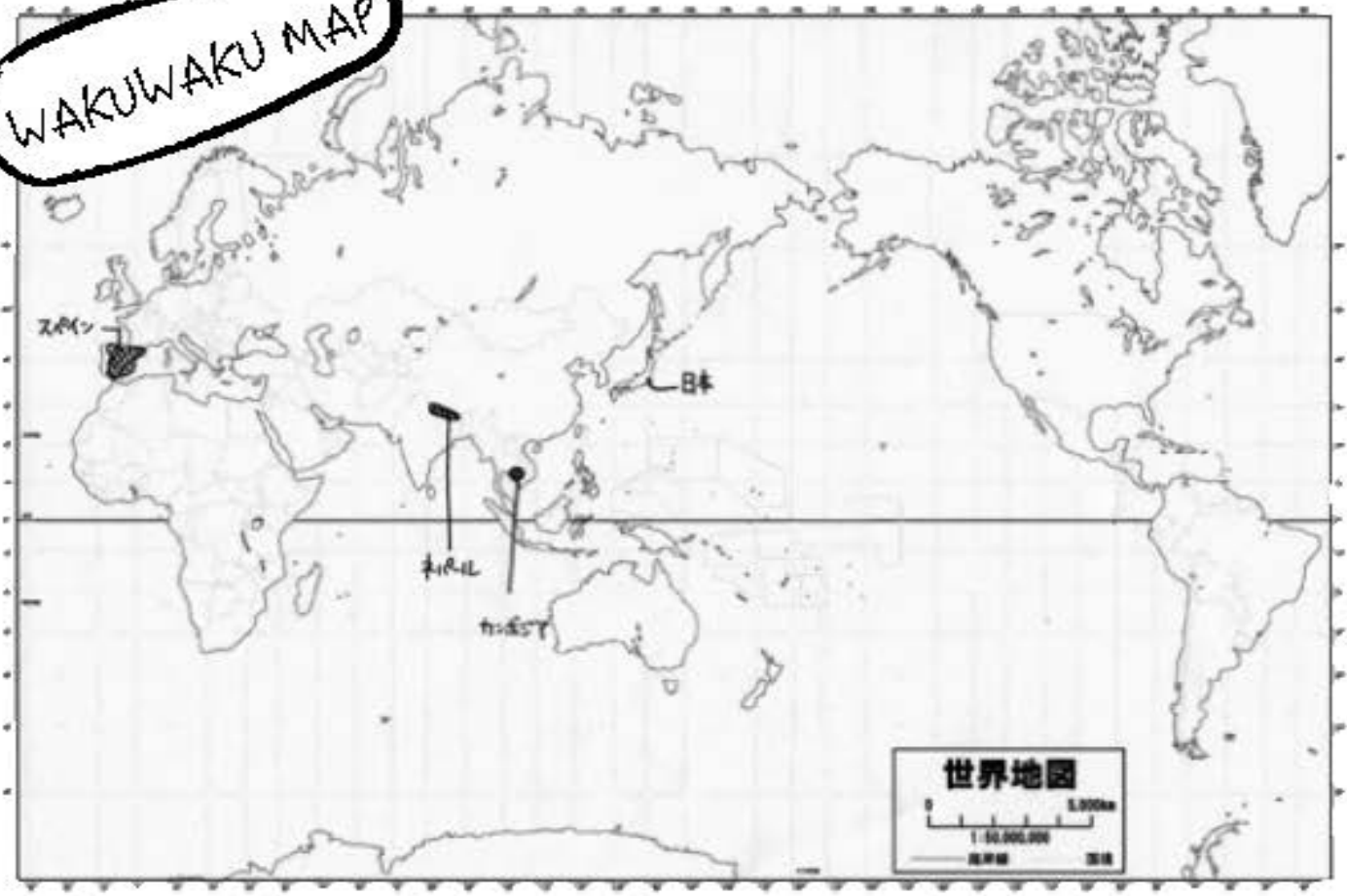
・山野ゼミフィールドワーク

(P.27)





WAKUWAKU MAP



いつもと違う場所。それは未知の場所。そこで未知の出来事、未知の文化に出会う時。未知と出会って未知なことに挑戦する時。未知の自分に出会う時。そんな時、私たちの心は自然と踊ります。

本学2年生の教養基礎科目「フィールドワーク」は、過去の学生たちの声により、「"わくわく"する体験ができるから」と、自然と「わくわく体験研修」と呼ばれるようになりました。

今年はどんな"わくわく"が起こったのでしょうか。さらにその他、授業外で行われたフィールドワークもありました。そんな「わくわく体験研修」を特集としてお送りします。



それぞれの「わくわく」がどこで起こったか、地図で確認してみよう！



# 芸術という分母～スペインの文化に触れて

行き先▷カンタブリア州都 サンタンデル

日程▷2015年9月10日～18日

旅費▷約200,000円（積立金+約10万円程度）



## 概要

北スペイン・カンタブリアの州都サンタンデルを訪れます。現地ではホームステイをさせて頂きながら、歴史的な街の散策、幼稚園訪問、アタウルフォ・アルヘンタ音楽院の学生さんたちとの共同コンサート等を行います。何よりもスペインの方々との交流は、何物にも代えがたい体験になると思います。参加可能人数はホームステイ受け入れ先の関係で5～6名です。

## 活動内容

日にち	内容
9/10 (木)	●ドイツ・フランクフルト経由でスペインに到着
9/11 (金) ～16 (水)	●一人ひとり別々にホームステイ ●ガウディの建築が残る村コミージャスと中世の街並みが残るサンティジャーナ散策 ●幼稚園2カ所を訪問し現地の子ども達と交流 ●アタウルフォ・アルヘンタ音楽院において現地学生達と共同コンサートを行い、手話合唱等を披露
9/17 (木)	●ドイツ・フランクフルト経由で18日帰国



スペインの方々と一緒にした買い物や観光、歩きながら話をしたこと一つ一つが私達の忘れられない大切な思い出となりました。手話合唱では、**家族との時間、スペインの方々と一緒にいた時間などを思い出し、皆泣きながら手話合唱をしました。**こんな機会を作って頂いた明石先生をはじめとする方々に感謝の気持ちでいっぱいです。（滝上 謙吾）

今振り返ると、また戻りたいと思う瞬間があります。それは、温かい人柄に触れたいという気持ちから来ているのだと思います。スペインの仲間は私たちのたどたどしい英語から気持ちを汲み取ろうとしてくれました。その姿勢に心温まりました。**相手の気持ちを知ろうと努力する大切さ**を知ることができました。（中島 啓）

スペインから帰ってきて2ヶ月経ちましたが、**今でも毎日思い出し、つい写真を見返してしまう**程に素晴らしい経験をさせて頂きました。スペインの方々は、言葉も自由に通じない私たちを心から歓迎し、笑顔で迎え入れてくれました。スペインで見た景色や感じた事、人の温かさを私は一生忘れないと思います。（湯浅 美幸）

私は7月にスペインの皆さんの訪日の際に自宅に受け入れをし、その方達のお宅にホームステイをしました。最初は戸惑うことも沢山ありましたが、そんなことは関係なく、「言葉が通じなくても国が違っても友達は友達だよ！」と心から伝えてくれる気持ちや、「ずっと両家族が繋がっていたい」「世界は1つなんだ」との言葉を感じ、スペインの温かさを素敵だと思いました。**世界がいかに広く、自分がいかに小さいか思い知りました。**一言で楽しかったと言えない程の経験と思い出が沢山できました。スペイン大好きです。（渡邊 真衣）

私はスペインに行き沢山の人と出会いました。初めは、異国で言葉もわからない為コミュニケーションが上手く取れるか不安でしたが、皆さん私たちに笑顔で優しく関わってくれました。**言葉が分からない分、笑顔で話してくれる姿は安心して繋がりました。**スペインで過ごした毎日は私にとって一生の思い出となり大きな学びの場でもありました。（佐藤 咲）

私はスペインに行って、**日本とは違う生活や文化**に触れてみて、とても感動しました。ホームステイでは家族全員があたたかく迎え入れてくれ、帰るのが嫌になる程、楽しく過ごすことが出来ました。非常に貴重な経験ができ、忘れられない思い出になりました。（前塚 和樹）

私は他のメンバーの誰よりも外国語が苦手で、日本を出国した時から不安ばかりでした。しかし、実際にスペインの方々に関わると笑顔で温かく迎え入れて頂き、上手に話しが出来なくても、一緒に食事をしたり、色々な所に遊びに行ったりして、幸せな時間を過ごすことが出来ました。**言葉が通じなくても、人と人は繋がれると実感しました。**（小谷 幸音）



# 隠岐の島の人と文化に出会う旅

行き先▷島根県隠岐郡隠岐の島町

日程▷2015年9月8日～14日

旅費▷約10万円（交通費・宿泊費・食費込）



## 概要

島根県隠岐の島を訪れ、ログハウスで共同生活をしながら、知的障害者施設「仁万の里（にまのさと）」と地元保育所「都万（つま）保育所」にて研修を積みます。また、地元の方たちにお世話になりながら、魚釣りなど隠岐ならではの体験をします。隠岐での生活を通し、人とともに暮らすことを考えます。

## 活動内容

日にち	内容
9/8（火）	●飛行機とフェリーを乗り継ぎ隠岐へ ●地元の方々へご挨拶
9/9（水）	●仁万の里、都万保育所での研修 ●漁師さん始め地元の方々との食事
9/10（木）	●仁万の里、都万保育所での研修 ●星空観測
9/11（金）	●仁万の里、都万保育所での研修 ●魚釣り体験
9/12（土）	●都万保・小・中学校合同運動会 ●そば打ち体験 ●島後散策 ●施設職員の方々との食事
9/13（日）	●島後散策（壇鏡の滝、福浦トンネル、サザエ村、中村海岸） ●所長さんの船にて海遊び
9/14（月）	●島前観光 ●島とのお別れ...久々の本土 ●帰路へ



私は隠岐の島へ行き、共同生活において必要な事と人との出会いを体験して学びを深めてきました。私はログハウスでの共同生活の中で、「**相手の気持ちを聞いた上で自分の気持ちを伝える**」、**気持ちの共有が大切だと感じました**。共同生活は他人と同じ場所で生活するので、伝えたいことを躊躇すると共同生活をしている人同士が相手の気持ちが分からず、歩み寄ってはいけないと感じました。実際に共同生活をして自分の気持ちを伝えるとお互いの気持ちを知る事が出来ると実感しました。そして、気持ちを相手に伝えられるようになると、意見を出し合ってお互いを高め合うことができ、良い環境で気持ち良く過ごすことが出来ると実感しました。私は隠岐の島で風邪をひき、皆に迷惑をかけてしまいました。（中略）共同生活は人を思いやるのが大切だと仲間が教えてくれました。（中略）隠岐で出会ったのは、とても優しい方たちばかりで、人との出会いを大切にしていこうと改めて感じられる体験でした。（酒井 穂波）

隠岐のわくわく研修の志望動機は、一つ目は島ならではの生活の中で、仲間と生活を共にして絆を深めたいと思ったからでした。二つ目は、仁万の里の「仲間」という言葉にすごく興味と驚きがあったことです。私が今まで実習をした中で、利用者の方を「仲間」という風にとる人は、全くいませんでした。なので「仲間」として関わるといのはどういうことなのか、どういう生活なのか気がになりました。

仁万の里での2日間は、とてもゆったりとした時間でした。この「**隠岐時間**」と呼ばれている時間が、一番印象に残っています。（中略）この2日間で、「仲間」というのは、**お互いを尊重しあっている**と感じました。

その他、アジ釣り、あしべの手伝い、ボート引きなどいろいろな体験をしました。どの時間も楽しくハツラツしました。隠岐での過ごす時間は、とても穏やかでした。三日目の夜に、隠岐の方に導かれて、星を見ました。天の川が肉眼でも見れるくらいに、綺麗に見れました。私の住む場所よりも何倍も綺麗に見れて唖然としました。隠岐でいろいろな人と出会えたことは、かけがえのない経験でした。（後略）（坂井 透）

私が隠岐の島に行きたいと考えた理由は、島ならではの保育や施設を知りたいということ、そして今までの自分が体験してきたこととどのような違いがあるのかを知りたいと思ったからです。今回、その思いで挑みました。

保育園での研修では、本当にゆったりとした雰囲気保育が行われていると第一印象で感じました。一番印象に残っているエピソードは給食です。（中略）食べることが遅い子がいると、声かけはするのですが、無理に急かすことなく、保育者が隣で寄り添っていました。午睡にもう入っている子もいました。子ども一人ひとりのペースに合わせた保育が行われていると感じました。

障害者支援施設の仁万の里では、さまざまな作業班があり、私は園芸班と加工班に入らせていただきました。どちらとも共通した感じたことは、「作業をされている方たちは、**自分の作業にプライドを持っている**」ということです。私に作業を教えてくださいときも、細かく教えてくださいました。（中略）休憩になると、一緒にマッサージし合ったり、コミュニケーションをたくさん取り合い、とても楽しかったです。

この隠岐の島だからこそ体験できたことがいくつもありました。そして7日間、共に過ごした仲間との生活も、この研修があったからこそ、体験できたものでした。感謝しています。（及川 駿）